

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(8月8日～8月14日)

2022年9月16日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- チハノフスカヤ陣営、ラトウシコ陣営らを中心とする民主勢力が合同で「新たなベラルーシ」大会を開催(8月8日、9日 於:ビリニユス)。「統一移行内閣」の成立を宣言。
- 新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)オミクロン変異株 BA.4.6 系統の感染確認(8月9日)

【ルカシェンコ大統領動静】

●制裁という状況下での経済の機能とその克服に関する会合

ルカシェンコ大統領と閣僚会議(政府)が出席。大統領の発言は要旨以下のとおり。

- ・欧州連合(EU)は地理的にも近く、EU 向け輸出は比重も大きいことから、取り組まなければならない。たとえ言葉の上だけであっても、切り捨てるようなことなどあってはならない。
- ・ゴロフチェンコ首相は各国駐在ベラルーシ大使に、ひたすら輸出に取り組んで成果を出すよう求めること。
- ・農業部門は実質的に制裁の影響を受けていない。農業生産の減少など受け入れられない。ロシア市場の開拓に取り組むこと。また、中国向け食料輸出も拡大する必要あり。
- ・ロシアとの科学技術関連プログラムの推進や対露輸出にあたっての貿易障壁の撤廃に取り組むこと。
- ・各銀行は、トルコ・リラやその他の外貨で決済を行えるようにしなければならない。
- ・中小企業はまずは自助努力を目指すべきであって、現状で国家からの何らかの特典や追加の支援を期待しないこと。

(8月9日 大統領府)

●パキスタン独立記念日に寄せた祝電

大統領は要旨以下を述べた。

- ・主権国家パキスタンが存在するようになって 75 周年は、重要かつ意義のある節目その 3 分の 2 の期間にわたり、ベラルーシ・パキスタン両国は共存し、友好的で相互に支え合う関係を強化してきた。

- ・ともに努力することにより、ベラルーシとパキスタンの間の協力の潜在力を、現在の、また将来の世代のために活用することができる。

(8月14日 大統領府)

【外交】

●2020年ベラルーシ大統領選挙から2周年に寄せた声明

(1)ボレル欧州連合(EU)上級代表による声明

- ・基本的人権の尊重を支持するベラルーシ人の民主的な願望と取組を支持
- ・アレクサンドル・ルカシェンコは全くもって民主的な正当性に欠けている
- ・人権侵害の証拠を収集し保存するという観点から、ベラルーシのための国際的な説明責任を明確化する取組を引き続き支持。
- ・ロシアによるウクライナ侵略にあたり、ルカシェンコ政権は、大多数のベラルーシ国民の意思に反してその共犯者となっている。
- ・ベラルーシ当局が、民主主義及び法の支配の原則、並びに人権及び基本的自由の尊重を完全に支持し、国際法及びベラルーシ自身のコミットメントに従って行動するよう求める。これには、ウクライナに対するロシアの侵略戦争への協力を止めることも含まれる。

(2)ベラルーシ外務省

- ・ベラルーシの指導部の正統性を決めるのは、ブリュッセルでもワシントンでもない。2年前、ベラルーシ国民は現政権とその路線への支持をはっきり表明した。
- ・対ベラルーシ制裁は、ベラルーシ国民の社会的・経

済的権利を侵害するのみならず、制裁を主唱した諸国自身の国民にも打撃となっており、また世界的な食糧危機を惹き起こしている。

・EU とその他の西側諸国に対し、反ベラルーシ政策を止め、対話と相互に尊重し合う協力に立ち戻るよう、切に呼びかける。

(8 月 9 日 外務省)

【内政】

●親政権団体が「愛国勢力フォーラム」を開催

(8 月 9 日 国営ベルタ通信)

●ベラルーシ当局は、グロドノ州オストロヴェツ地区ペレサのリトアニア語学校を閉鎖

・地元の非常事態省当局は、消防用設備に問題があったためと説明。

・同校は 1992 年開校。リトアニア政府が運営資金を出資してきた。リトアニア外務省は、閉校は二国間の合意に違反するとして非難。

(8 月 12 日 「明るい道(スヴェトリー・シリャフ)」紙、13 日 BPN)

●ベドゥンケヴィチ内務省組織犯罪対策総局次長:抗議行動への参加で手配中の者の 79%以上はベラルーシ国外に逃亡中

(8 月 9 日 大統領府発行「ソヴェツカヤ・ベロルシア」紙、BPN)

●2020 年 8 月 9 日の大統領選挙の日から 2022 年 7 月 1 日までに、11,000 人を「過激主義的傾向」の犯罪で刑事告訴

(8 月 11 日 捜査委員会)

●8 月 12 日現在の政治犯の数は 1,276 人

(8 月 12 日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

【治安・軍事】

●空軍・防空軍による作戦・戦術演習の実施

・8 月 9 日から 11 日にかけて、実弾演習を実施。

・兵員、作戦機、防空部隊、電子戦部隊等が参加。

(8 月 9 日 国防省)

【経済】

●包装容器「テトラパック」の供給を巡る問題

・飲料の包装に使用する紙パック「テトラパック」を、ベラルーシ企業はロシアから調達。しかし、2 月 24 日のロシアによるウクライナ侵略開始を受けた制裁に伴い、「テトラパック」調達を巡って問題が発生。

・8 月 9 日、ベラルーシ大統領公式 Telegram は、同日、ルカシェンコ大統領が閣僚との会合において、本件につき報告するブルイロ農業食糧大臣を叱責する動画を配信。

・8 月 12 日、ルカシェンコ大統領はミンスク市内の乳製品工場を視察し、年内に「テトラパック」の輸入代替を軌道に乗せるよう指示。

(8 月 9 日 大統領府、Zerkalo、「我らの家(ナシャ・ニヴァ)」、8 月 12 日 大統領府)

●2022 年上半期の貿易高:343 億ドル

・輸出 171 億ドル(前年同期比▲3.7%)

・輸入 172 億ドル(前年同期比▲8.9%)

(8 月 9 日 国家統計委員会)

●2022 年上半期における「ハイテクパーク(情報通信技術・スタートアップ特区)」入居企業による納税額は、前年同期比 21.7%増

・2022 年 1 月～6 月の「ハイテクパーク」入居企業による納税額は 4 億 3,510 万ルーブル(約 1 億 6,000 万ドル強)。前年同期は 3 億 5,740 万ルーブル(約 1 億 4,000 万ドル弱)。

・「ハイテクパーク」の納税企業数は、前年上半期の 1,012 社から 34 社増の 1,046 社。

(8 月 9 日 税務省、BPN)

●2022 年上半期の外国からベラルーシへの投資額は、前年同期比▲6 億 3,900 万ドルの 43 億ドル(前年同期比▲12.9%)

・主な出資元はロシア(45.3%)、キプロス(20%)、オランダ(6.4%)、ウクライナ(5.2%)。

(8 月 12 日 国家統計委員会)

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ陣営、ラトウシコ陣営らを中心とする民主勢力が合同で「新たなベラルーシ」大会を開催(8 月 8 日、9 日 於:ビリニュス)

8 月 9 日、「統一移行内閣」の成立が発表された。成員は以下のとおり。

- ・スヴェトラナ・チハノフスカヤ民主勢力代表
- ・パヴェル・ラトウシコ元文化大臣(権力移行担当)
- ・アレクサンドル・アザロフ「ByPol」(元治安機関職員による内部告発を行う団体)代表(秩序回復担当)
- ・ヴァレリー・サハシチク元第 38 空挺突撃旅団長(予備役中佐)(国防・国家安全保障担当)

(8 月 8 日、9 日 チハノフスカヤ氏公式サイト)

【その他】

●5 歳以上が COVID-19 ワクチンを接種可能に

保健省の発表は要旨以下のとおり。

・8 月 8 日から、ベラルーシでは COVID-19 ワクチン接種可能年齢を 5 歳以上に引き下げ(従来は 12 歳以上)。

・17 歳以下の小児に使用されるワクチンは、中国製の Vero Cell。

・8 月 4 日現在のベラルーシ全国のワクチン接種状況は、総人口の 69.4%が 2 回接種済み。ブースター接種を受けた人は、総人口の 26.1%。

(8 月 4 日、8 日 保健省)

●新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)オミクロン変異株 BA.4.6 系統の感染確認

タラセンコ保健次官兼共和国主任衛生医の発言は要旨以下のとおり。

・オミクロン変異株 BA.4.6 系統が、ヴィテプスク及びミンスクでの感染者 2 名から検出。

・ステルス・オミクロン」の流行は収束しかかっており、ベラルーシでの流行の 8%程度となっている。一方、オミクロン変異株 BA.4 及び BA.5 系統は、新規感染確認全体の 92%に上る。

・オミクロン変異株 BA.4.6 系統は、世界 43 か国で確認されており、他のオミクロン変異株の系統に比べて感染力が高く、抗体がウイルスを無力化する作用をすり抜けやすい。

(8 月 9 日 保健省)

(了)